東日本大震災被災地復興支援地域福祉活動報告研修会

2015年

2月11日 (水・祝) 14:00~16:30

参加費無料

会場:YMCAアジア青少年センター(東京水道橋) 9F国際ホール

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 2 - 5 - 5



「制度の狭間にいる人と地域をどう支えるか ~東日本大震災復興支援の現場から~」

■事例報告者■

「復興期ならではの地域福祉活動としての実践報告」

釜石市社会福祉協議会 地域福祉課長 菊池 亮さん

「復興期に必要となる子どもの学習支援・寄り添い活動などの実践報告」 子どものエンパメントいわて(E-PATCH)代表理事 山本 克彦さん

「生活困窮者に対するよりそい支援活動の実践報告」 あすからのくらしと仕事相談室「宮古」(あすくら宮古) 副理事長

■コーディネーター■

阿部 陽一郎さん(全国社会福祉協議会)

定員:80名(先着順)

お問い合わせ

〒663-8201

兵庫県西宮市田代町16-8 パルティーレN棟 西号室 TEL: 0798-64-5829 FAX: 0798-65-5254

URL: http://npo-sakura.net/

NPO法人さくらネット

東日本大震災の被害を受けた被災地では、さまざまな団体が支援活動に取り組んでいます。

岩手県には、沿岸に拠点を持ち、復興期に求められる新たな地域福祉活動を行なう団体があります。

その中の3つの団体に対し、アメリカで設立され世界にシェアを持つ企業「ラルフ・ローレン」から、団体の基盤強化や人材育成のための助成事業が継続されています。

助成を受けた3団体である「釜石市社会福祉協議会」「あすくら・宮古」「子どものエンパワメントいわて」は、それぞれ、地域福祉や生活困窮者支援、子どものための居場所づくりにおいて、復興モデルとなるような取り組みを行い、新たな地域福祉のしくみづくりにも貢献しています。

次年度は、生活困窮者自立支援制度が施行され、介護予防制度や教育カリキュラムの改編が進みます。被災地においても、他地域においても、制度の狭間の課題を抱える地域の支援をどのように進めていくのか、実践と検証を積み重ねることが重要になると考えられます。

当報告研修会では、上記の3団体の取り組み報告を通じ、他地域にも共通する地域福祉課題の可視化、求められる専門性や人材育成の方向性の検討、を行うことを目的として開催します。

あすからのくらし相談室・宮古(「あすくら・宮古」)

東日本大震災の被災地である岩手県宮古市に拠点をおき、生活の困りごと相談を行っています。岩手県における「平成26年度生活困窮者自立促進支援モデル事業」を受託しており、さまざまなくらしの問題を抱える人々によりそっています。特定非営利活動法人くらしのサポーターズ(代表:松本良啓弁護士)が運営しています。

社会福祉法人釜石市社会福祉協議会

災害後に釜石市社協生活ご安心センターを開設し、被災地における地域福祉活動やボランティア活動、見守り訪問活動などを行なっています。被災後にバラバラになった住民のみなさんの送迎やつき集会である「語りの日」事業や、津波エリアでのいきがいづくりを願う「ファーム」事業など、復興期ならではの事業を行う一方、生活支援相談員を雇用し、丁寧な見守り活動を行っています

一般社団法人子どものエンパワメントいわて(E-PATCH)

東日本大震災被災地である沿岸周辺の5市町において、子どもたちに居場所を提供し、学習支援や夢の描き直 しによりそう支援を行なっています。岩手県における「盛岡広域振興局学習支援及び悩み相談プログラム」を受託し、 生活困窮世帯への学習支援を行なっています。

■ お申込み方法 (2月6日(金)締切)

①FAXの場合 下の参加申込書をご記入いただき、FAXにてお送りください。

②ホームページの場合 入力フォームにご入力のうえ、お申込みください。

http://npo-sakura.net/s_form/index.php

お申し込み先: NPO法人さくらネット

東日本大震災被災地復興支援 地域福祉活動報告研修会 参加申込書

FAX: 0798-65-5254

個人情報の利用目的:お預かりした個人情報は、ご参加の皆様との連絡の他、研修の開催に必要な範囲内で利用させていただきます。

フリガナ			勤務先·学校名等
お名前			
ご連絡先	〒 ご勤務先・ ご自宅 (いずれかに○をつけてください。)		
	電話番号		FAX番号
	E-mail		